



広報

まつやま

主な内容

- 子ども特集 道後温泉本館…6・7面
- 年末・年始の主な施設の閉庁・休館…2面
- 移動図書館「つばき号」巡回日程…4面
- 市民ガイド…5・8～11面

発行:松山市役所/編集:総合政策部広報課/毎月1日・15日 ☎948-6705 FAX 934-2578 HP http://www.city.matsuyama.ehime.jp/

一人でも多くの人を笑顔に 全国に誇れる、わがまち松山

大賞受賞の声



真枝 志保さん
—プロフィール—
昭和53年生まれ。
広島県在住。
家事手伝い。

—受賞の感想は—
実は今日、誕生日なんです。すごい誕生日プレゼントをもらって驚いていますし、うれしいの一言です。

—作品のテーマは—
女の友情です。友達を必要としていない大学生の主人公が、同じアパートに住む「女の子」と「物干しざお」がきつ

—今後の目標は—
私の文章でも読んでくれる人がいるんだなというのが励みになりましたので、今後も一歩ずつ私の世界観を広げていける作品を書き続けていきたいと思っています。

第12回坊っちゃん文学賞 大賞に真枝志保さんの『桃と灰色』



大賞の真枝志保さん(前列中央)、佳作の遊部香さん(前列左)、白崎由宇さん(前列右)、ほか最終ノミネート作品の作者(後列)

「第12回坊っちゃん文学賞」の審査発表と表彰式が11月17日、市役所で行われました。1057作品の応募の中から、大賞には真枝志保さんの『桃と灰色』が、佳作には遊部香さんの『星々』と白崎由宇さんの『チチノチ』の2作品が選ばれました。

今回の坊っちゃん文学賞は国内外から1057作品の応募が寄せられ、選考の結果、8作品が最終ノミネートされました。審査発表・表彰式では、審査員長の椎名誠さんをはじめ、審査員の早坂暁さん、中沢新一さん、高橋源一郎さんから大賞と佳作2作品の発表・講評があり、野志市長らから受賞者3人に表彰状などが贈られました。なお大賞作品は、マガジンハウス発行の情報誌「クワネル」2012年3月号(平成24年1月20日発売予定)に全文掲載されます。

保存してください。いつかまた お役に立ちます

第12回坊っちゃん文学賞 最終ノミネート8作品

- | | | |
|----|------------------------|-----------------|
| 大賞 | 『桃と灰色』 | 真枝 志保 |
| 佳作 | 『星々』 | 遊部 香(千葉県) |
| 佳作 | 『チチノチ』 | 白崎 由宇(千葉県) |
| | 『孤独を消費するだけの世界』 | 岡本 学(埼玉県) |
| | 『世界はいつだって思うように動いてくれない』 | かとう みさお(シンガポール) |
| | 『一富士、二鷹、三カーゴ』 | 河合 しん(鳥取県) |
| | 『そらを見上げる』 | 坂井 和香(大阪府) |
| | 『小麦の風景』 | 杉山 佳隆(東京都) |
- (敬称略)

審査員講評



椎名 誠さん
坊っちゃん文学賞は、若々しい賞でありながら、歴史を持った輝ける文学賞だと思えます。

今回は作風の風向きが変わったようで、これまでの坊っちゃん文学賞が昇華していい格好に育ったのかもしれないかと解釈しています。30代と女性が多く、活況を呈していると言っています。



早坂 暁さん
大賞作品は、生活用品の物に集中して、周りの世間がなく、生活感そのものを凝縮

しています。そういう狭い生活感覚のところだけに絞って書いているのが素敵だと思つたんです。これまでの応募作品の中でも一番狭い世界を書いているところを、逆に評価しました。



中沢 新一さん
佳作の『星々』は、天文学の研究をしている大学生とプロのウインドサーファーという分

れて育った双子のDNAを問題にしたお話です。星の世界の軽やかさとサーフィンの横へ滑っていく感じが交差しながら、大変きれいにまとめられた作品でした。



高橋 源一郎さん
佳作の『チチノチ』もDNAをめぐるお話で、もしかしらら血のつながりのようなものを

を求める気持ちが働いているのかもしれない。著者は男性でありながら、主人公の女性だけでなく他の女性も大変生き生きと繊細に描いていて、すごく読みやすかったです。

お問い合わせは、国際文化振興課 ☎948 6634・FAX 943 9001へ

東京ヤクルトスワローズ 11/7~22 松山キャンプ

松山秋季キャンプ 3年延長
東京ヤクルトスワローズが2004年から本市で行っている秋季キャンプを来年以降3年間継続し14年度まで延長する契約の調印式を、11月16日に坊っちゃんスタジアムで行いました。調印に当たってヤクルト球団・衣笠剛社長は、数あるキャンプ地の中から松山を選んだ理由について、温暖な気候と練習環境の良さを挙げました。
またキャンプでは恒例となった、選手による少年野球教室や学校訪問などが行われ、多くの市民が交流を深めました。



松山秋季キャンプ継続契約に調印した衣笠社長(写真右)と野志市長



選手と50m走で競争する児童(11月17日・道後小学校)

お問い合わせは、(財)松山観光コンベンション協会(東京ヤクルトスワローズ松山協力会) ☎935 6711・FAX 921 0289へ